

# ZOOM UP 医学部教育 最前線 Vol.19

## クラブ・サークル活動

スポーツ系クラブが  
意外に活発で  
医学部独自の  
全国大会も開催される



### 順天堂大学は75%がスポーツ系クラブ 慶應義塾大学は9割の学生が体育会に所属

医学部に合格するためには、ハードな勉強を積み重ねる必要があります。勉強時間を確保するために、高校時代、それまで続けてきた部活動や習い事を断念した人も少なくないかもしれません。

しかも、よくいわれることですが、医学部は入学してからも勉強を怠けることはできません。1年次から時間割はびっしり埋まっていますし、ほとんどの科目が必修科目なので、1つでも単位を落とすと留年することになってしまいます。学び続ける姿勢が不可欠であり、クラブ・サークルに入る余裕はないと考えている人も多いと思われます。

ところが実際には、医学部は他の学部以上にクラブ・サークル活動が活発なのです。入学式の前後には、キャンパスに数多くのクラブ・サークルが看板を並べて、入部の勧誘合戦が繰り広げられます。

もちろん文化系クラブもありますが、スポーツ系のクラブ、いわゆる体育会系のクラブ活動が盛んなのも、医学部の大きな特徴です。

たとえば、順天堂大学医学部には2019年度現在で31のクラブ・同好会があります。そのうち文化系クラブ・同好会はME研究会、学生医療研究会、クールゲーツ、写真部、JAZZ部、順天堂交響楽団、熱帯医学研究会、囲碁・将棋部の8つだけです。全体の約75%に当たる23団体がスポーツ系クラブ・同好会で占められているのです。文化系クラブに所属している学生の中には、スポーツ系クラブと掛け持ちしているケースも見られます。

スポーツ系クラブへの参加を積極的に推奨している医学部も少なくありません。慶應義塾大学医学部では、24の競技団体が構成される「医学部体育会」が組織されており、9割以上の学生が所属しています。これほどスポーツが盛んとは意外に感じられるかもしれませんが、実は慶應義塾大学医学部は、後述する「東医体」で最多優勝を誇る強豪大学なのです。その実績を維持するために、練習や試合にOB・OGが頻繁に訪れ、後輩を指導する姿が見られるとのこと。ホームページには「医学への真摯な姿勢と、学生としてのキャンパスライフの楽しさ。一見相反するこの2つの生活が、何の違和感もなく共存するのが、慶應義塾大学医学部の目標です。自由闊達な中に、福沢諭吉の理念である半学半教の精神と、文武両道のスポーツマンシップが、キャンパスの雰囲気構成しています。ここで磨かれる人間力こそが最大の財産になるでしょう」と書かれています。

### 医学部生だけの活動が主流 学業との両立のために練習時間にも配慮

ところで、医学部のクラブ・サークルは、他学部の学生と合同ではなく、医学部生だけが参加できる仕組みになっているケースがほとんどです。これも医学部のクラブ・サークル活動の特色といえます。

その理由は大きく3つあります。1つは、総合大学の医学部では、キャンパスが他学部とは別に設けられている場合が多いということです。他学部の学生と一緒に活動するのは、現実的に困難なのです。

2つめは、医学部の場合、毎日のように練習するのは難しいカリキュラムになっています。高度な内容の授業ばかりなので、平日でも予習・復習が欠かせません。低学年次でも解剖などの実験が始まると、土日も実験レポートの作成などに相応の時間が費やされます。当然、高学年では臨床実習がスタートしますし、6年次は医師国家試験に向けた対策を進めることが至上命題になります。そうした多忙な学業と両立させるとなると、他学部の学生と練習スケジュールを合わせるのは難しくなるわけです。実際、医学部のクラブ・サークルは、練習を週2~3日程度に限定するところが多いようです。

最後に総合大学では、大学ごとに力を入れているスポーツがあり、そのクラブにはスポーツ推薦入試などで合格した学生や、特待生なども所属しています。そのため、現実的な問題として、医学部の学生と一緒に練習できるような環境ではないことも多いのです。逆にいえば、医学部生だけが集うクラブ・サークルならば、中高時代に経験していなくても、入りやすい面があるともいえるでしょう。

### 総合優勝をめざして盛り上がる 「東医体」と「西医体」

日頃の練習の成果を示す大会も開催されています。2019年度に62回目を迎える「東日本医科学生総合体育大会（東医体）」は23種目、さらに長い伝統を有し、71回を数える「西日本医科学生総合体育大会（西医体）」は21種目で行われています。資料1。授業などに支障が出ないように、夏休みを中心に実施されています。

いずれも医学部生のみが参加できる大会なのですが、その規模は大きく、国体（国民体育大会）に次ぐ参加者数を誇っています。総合優勝をめざして、毎年、熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がっています。

ちなみに2018年度は、「東医体」は筑波大学、「西医体」は三重大大学が総合優勝を果たしました。そのほかの上位校は、資料2の通りです。

さらに、「東医体」「西医体」の上位校による「全日本医科学生体育大会王座決定戦」も開催されます。ただし、種目は限られており、2018年度の第52回大会は弓道、テニス、ソフトテニス、バドミントン、サッカー、バスケットボール、卓球、バレーボール、柔道の9種目でした。

### 文化系のクラブ・サークルは ボランティア活動関連が目立つ

一方で、文化系のクラブ・サークルは、やはりボランティア活動関連が目立っています。社会貢献の意識が高い学生が多い医学部らしさが表れているといえるでしょう。大学も積極的にバックアップしており、附属病院に入院している子どもたちとの交流や、看護・介護のサポート業務などに携われるようにしているケースも見られます。そのほか、クラブ・サークルで、独自に社会福祉施設などと連携し、多彩な支援活動に取り組む場合もあります。

もちろん、音楽系、美術系、茶道、華道、囲碁将棋、落語など、他学部でも定番のクラブ・サークルは、多くの医学部に設けられています。

### 体力強化、人間関係の構築、 チームワーク力など数多いメリット

医学部で、クラブ活動を推奨し、実際に多くの学生が参加しているのは、さまざまなメリットがあり、成長が期待できるからです。

医師の仕事はきわめてハードで、体力はもちろん、精神的なたくましさや、忍耐力が要求されます。厳しい練習を積み重ね、そうした医師として大切な力が育まれます。

また、学業とクラブ活動を両立させるためには、オンとオフのスイッチを切り換えることが重要になります。それがうまくできるようになれば、学生生活にメリハリが生まれます。クラブ活動がいい気分転換の場になり、ストレスを発散することもできるでしょう。実際、多くの学生から「クラブ活動がかえって心のリフレッシュになり、日々の勉強を頑張ることができた」といった声が聞かれます。

多様な人間関係が築かれることも、大きなメリットです。クラブ活動に参加した人の多くが「学年の枠を越えて、たくさんの仲間に出会った。その関係は卒業後も続き、一生の財産になっている」と語っています。先輩学生からは、過去にどんな問題が出題されたかなど、定期試験対策のアドバイスが得られるケースもあるようです。同級生とは、競技に関してだけでなく、勉強の面においても切磋琢磨できる仲間として、励まし合える関係も築けるでしょう。「東医体」「西医体」などに参加すれば、他大学の医学部の友人もできます。医師になった後も連携を図れることが期待できます。

さらに、近年の医療の世界では、チーム医療がとても重要です。多彩な医療専門職スタッフとコミュニケーションを図り、なおかつ医師としてリーダーシップを示す力量が問われます。医学部のスポーツ系クラブは、個人競技以上に団体競技が活発です。勝利をめざして一丸となって取り組む中で、チームワークや協調性の大切さを学ぶことは、将来、必ず役立つと考えられます。

そのほか、医師には、治療する際に的確な方針・計画を立てる力が求められます。スポーツにおいても同様の面があり、勝つための戦略が重要になります。それを身につけることは、将来、医師として活躍する上でも大きな意義があるといえるでしょう。

topics

### メディカルラボチューターの高橋周治さんが 日本学生陸上選手権大会100mで3位入賞

今年6月8日、「2019日本学生陸上競技個人選手権大会男子100m」で、メディカルラボ名古屋校のチューター・高橋周治さん（愛知医科大学6年）が、10秒46のタイムで、3位に輝きました。現在、3年連続で日本選手権に出場中で、特に2017年は決勝に進出し、サニブラウン選手、桐生選手らと走り、7位入賞を果たしています。来年3月、卒業予定ですが、「研修医をしながら、東京オリンピック出場の可能性を見据えていきたい」と語っています。皆さんもぜひ、高橋さんの活躍を応援してください。

#### ◆資料1 大会の競技種目

- 東日本医科学生総合体育大会  
陸上/硬式野球/準硬式野球/テニス/ソフトテニス/卓球/バレーボール/バドミントン/サッカー/バスケットボール/柔道/剣道/弓道/空手道/水泳/ヨット/ボート/馬術/ハンドボール/ゴルフ/スキー/ラグビー/アイスホッケー（計23種目）
- 西日本医科学生総合体育大会  
硬式テニス/ソフトテニス/サッカー/準硬式野球/バスケットボール/バレーボール/バドミントン/弓道/柔道/卓球/ヨット/陸上/ボート/水泳/合気道/空手道/剣道/ハンドボール/ラグビー/ゴルフ/スキー（計21種目）

#### ◆資料2 2018年度大会の総合順位ベスト10

- 東日本医科学生総合体育大会  
①筑波大学 ②旭川医科大学 ③秋田大学 ④慶應義塾大学 ⑤群馬大学 ⑥東北大学 ⑦信州大学 ⑧福島県立医科大学 ⑨自治医科大学 ⑩昭和大学
- 西日本医科学生総合体育大会  
①三重大大学 ②愛媛大学 ③長崎大学 ④和歌山県立医科大学 ⑤岡山大学 ⑥高知大学 ⑦名古屋大学 ⑧山口大学 ⑨鳥取大学 ⑩大阪大学